

平成28年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月24日実施)	総合評価 (3月27日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	①1750分の授業時間確保のため55分授業への円滑な移行を図る。 ②平成29年度からの新たな教育課程を円滑に実施する。 ③朝学習、夏期講習・補習の充実に取り組む。	②平成29年度の教育課程表を作成する。	②時間割編成等のシミュレーションにより、課題整理を行う。	②課題の洗い出し時期が適切であり、年度内に課題解決ができたか。	①55分授業の日課表について、5分休憩、昼休み開始時刻、放課後の活動時間の確保等の観点から検証・検討を行った。 ②3学年選択科目の開講状況により、時間割編成に大きな制約が生じることが判明した。 ③朝学習の消化率は1年91%、2年85%、3年69%と、昨年とほぼ同様であった。	①55分授業の趣旨を活かしながら、放課後の時間確保のために54分授業8分休憩の検討を行い確定した。 ②3学年の選択科目開講の可否判断基準について検討を行う。 ③引き続き、家庭学習の時間の確保に向け、生徒への働きかけを進めていきたい。	①1単位毎の授業時間確保については、アクティブ・ラーニング推進の流れの中で、45分授業でできなかったことができないのではないかと期待している。	①54分授業8分休みで実施することを決定したことで、平成30年度から1750分の授業確保を行う運びとなった。これに伴い、放課後の時間の使い方について生徒へ様々な提案をしていきたい。また、教務内規の変更等、所定の手続きを急ぎ行いたい。	①54分授業を有効に使うために、開発広報と協力し、さらなる授業改善を進めていきたい。 ○「自学力の育成～アクティブ・ラーニングによる授業改革～」については、「仮説(全職員が共通して取り組む事項)」をたて、効果測定を行いたい。
2 生徒指導・支援	①生徒が安心して学べる学校づくりと支援体制の充実を図る。 ②生徒会活動及び部活動を通して、生徒の自主性や主体性を育てる。	②生徒会活動や部活動において、生徒と担当職員・顧問との連絡を密にする等、生徒の活動を支援する。	②生徒会活動や部活動において、生徒自らが課題を発見し解決する機会を年1回以上設定する。	②文化祭や体育祭など学校行事、部活動の活動状況に変化が現れたか。	②生徒の発案により、体育祭でPTAと生徒による熊本地震義援金の募金活動を行った。また、岸根・城郷・市ヶ尾・港北の4校の生徒会役員の交流会を本校で開催した。	②文化祭において、文化祭実行委員会を中心に生徒の積極的な取組がみられた。今後は、学校行事等でPTAや地域との連携をさらに図り、本校の「学校文化」を外部へ発信する取組を行っていきたい。	②様々な行事への生徒参加が進んでいるように思える。これからは、計画・立案などの段階から生徒が参加する方向へ、少しずつ進んでいくことを望んでいる。	②PTAと生徒による募金活動や、4校の生徒会役員による交流会など、生徒が企画した新たな取組が実施されるなど、生徒会活動が活発化している。今後もPTAや地域との連携を図り、学校行事をさらに充実させる。	②各行事の内容や新しい取組、課題などを生徒が検討し改善することで、生徒会の活動や学校行事等をさらに充実させていく。
3 進路指導・支援	①生徒の発達課題に応じたキャリア教育を実践し、生徒の自己実現力を育成する。 ②校内外の関係部署との連携を深め、生徒の個性や多様な進路希望に適した支援体制の充実を図る。 ③進路相談体制の強化、拡充を図る。	③進路相談体制の拡充に向け説明会等の工夫・改善を図る。	③説明会等について生徒だけでなく、保護者にも周知し、支援体制を充実させる。また、夏季休業中の三者面談や1学期の面談週間以外にも面談ができるように推進する。	③上級学校講座の来校学校数、保護者説明会出席者数が増えたか。また、進路資料室の利用状況等に変化が現れたか。	③進路資料室の赤本等を拡充したところ、3年生の利用が増加した。また、上級学校講座の実施を3年1学期から2年2学期に繰り上げ、3年1学期では学校(上級学校)説明会を実施した。昨年の上級学校講座の来校数が35校であったものが、今年度は62校に増加した。さらに、年度当初に2、3年生保護者を対象に進路説明会を行ったところ、来校者数が前年度の126名から258名に増加した。	③さらに進路資料室の資料の充実と、情報検索用のパソコンの配備によって、進路情報に係る環境の充実に力を注ぎたい。また、保護者向けの進路講演会の内容についても本校生のニーズに応えたものとなるように検討を続けたい。	③現役指向が強まり、また、大学受験の多様化の中で、生徒への情報提供のあり方も変化せざるを得ない。個々の必要に応じた情報の提供に努めてほしい。	③学校説明会の中で、アクティブ・ラーニングの説明に加え、本校の進路指導や進路状況について説明を行い、本校進路指導の特色について理解をいただいた結果、受験する中学校の幅も広がってきた。 また、進路指導室がより有効に利用されるよう、資料や付帯施設の拡充に努めていきたい。	③進路指導室に、学習机を整備し、資料閲覧のための利便性を高めた。さらに、ICTを活用した進路指導室の利用法なども検討していきたい。

4	地域等との協働	<p>①地域との連携・協働により開かれた学校づくりを進める。</p> <p>②保護者・地域への情報提供に努め、家庭・地域の支援体制を整える。</p> <p>③横浜北東・川崎地域の高等学校との情報交換・交流により、教員の授業力向上と豊かな生徒発表の場を構築する。</p>	<p>③横浜北東・川崎地域の高等学校を中心に本校研修会への参加を呼びかけるとともに、地域内の高等学校と共同して生徒発表の場を設定する。</p>	<p>③「授業力向上推進重点校」の取組を軌道に乗せる。</p>	<p>③「授業力向上推進重点校」としての研修会や生徒発表会の反省と振り返りを行い、3年計画の達成状況を分析する。</p>	<p>③4月当初の計画通り、年3回の職員研修会に加え、公開研究発表会を行った。加えて、県の高校改革実施計画に基づき、地域31校による地域別研究協議会、学習成果発表会、研究成果発表会を開催した。どの研修会・発表会においても、参加者の振り返りの中で、高い評価を得ることができ、ほぼ、当初の目的を達成したものと考えている。</p>	<p>③本校が掲げる「アクティブ・ラーニングによる授業改革」をより多くの職員に深く浸透させるよう、研修会や発表会について一層の充実を図るとともに、アクティブ・ラーニングによって「自学力」を育てていく意識を高める。また、アクティブ・ラーニングによって、生徒がより深い学びを得ることができるよう工夫するとともに、変化を続ける本校の姿を外部へ発信し、正しく評価される努力を続けていきたい。</p>	<p>③アクティブ・ラーニングによる生徒の変容は、確実に進んでいると感じる。家庭内の会話の中にも、聞く態度や、話す内容に成長を感じ取れる。</p> <p>多くの時間を費やして行っている研修やその成果については、ホームページなどのメディアを通じて、もっと広める努力をするべきである。</p>	<p>③「授業力向上推進重点校」として、授業改革に取り組む一方で、研究指定校の生徒及び教職員の取組みを発表する会を主催した。管理職やグループで協力して、やり通すことができた。</p> <p>研究指定校をまとめる役回りは、事務量がかなりあり、授業改革を研究する立場との両立は、難しい部分もあるが、主催することで組織的・地域的対応の重要性を強く認識することもでき、また、学校間連携の重要性も改めて認識できた。</p>	<p>③授業改革の促進を軸足とし、残り二年となった研究に取り組みながら、地域の研究指定校をまとめる役割は、できる限り効率化を図りながら進める。</p> <p>また、この研究の成果を学校だけでなく、保護者や地域にも広く知らせていきたい。</p>
5	学校管理 学校運営	<p>①防災に係る地域連携を進め、教職員や生徒の防災意識を高める。</p> <p>②事故防止会議（不祥事防止研修会）を実施し、教職員の危機管理意識を高める。</p>	<p>①単に訓練や講話を行うだけでなく、緊急時の対応について家庭で十分な話し合いをしたり、職員の意識を高めたりする工夫について検討する。</p> <p>②業務のスリム化を実現し、余裕を持って仕事にあたることのできる環境づくりを行う。</p>	<p>①防災訓練・防災講話等を実施することで、近隣小中学校と連携を深め、地域の方々とのような業務分担ができるかを考えることで、職員・生徒の防災意識を高め、より実効性のある防災対策を考える。</p> <p>②危機管理意識を高め、情報を共有するため、年間計画を立て、グループが持ち回りで全職員対象の事故防止会議（不祥事防止研修会）を月に1回、職員会議に併せて行う。</p>	<p>①太尾地区大規模防災訓練等に参加するなど、学校・保護者・地域住民との連携を重視したか。</p> <p>②教職員が事故・不祥事防止を自分たちの問題として危機意識を高め、情報共有ができたか。</p>	<p>①校内の防災訓練・防災訓練事前指導・防災講話等に加え、生徒防災係および生徒希望者が太尾地区大規模防災訓練に参加するため、隣接の太尾小学校を訪問して研修を行なうとともに、地域住民との連携を図った。</p> <p>②4月から毎職員会議の冒頭、県作成の資料を用い注意喚起を行った。また、折に触れ、他校の例を紹介し、本校でも起こり得ることを強調した。その結果、研修会を年間23回開催し、延べ1040人が参加した。</p>	<p>①防災講話の内容を充実させるため、本校教職員が、DVDによる映像資料などの教材を活用するなどして、本校生徒に適した内容となるよう教材の精選を図る。また、地域における防災知識を身につけるため、DIG研修などを取り入れる。</p> <p>②今後も毎回の職員会議を有効に活用して様々なテーマを取り上げるとともに、職員自らが講師となって実施する機会を増やしたり、講義以外の形態での研修を導入したりして、職員の危機管理意識を高めていく。</p>	<p>①防災教育については、3.11以降、人々の関心も、重要性も高まってきている。より実効性のある防災教育について、研究を続けていくことは、とても大切なことと感じる。</p> <p>②教職員の不祥事は、本人のみならず、地域にも少なからぬ影響があり、常に過去の失敗に学ぶ姿勢を持ち続ける必要がある。是非、これからも続けてほしい。</p>	<p>①地域住民との連携、校内における防災訓練や防災講話等を通じ、充実した防災教育を実施できた。3.11の記憶を風化させないための重要な取り組みでもある。今後も、引き続き研究を続け、実効性のある防災教育を推進していく。</p> <p>②事故防止会議を計画的に実施した。また、教職員自らが講師役を務めることにより、自覚的に、当事者意識を持って、職員を啓発することができた。今後も、過去の失敗に学ぶ姿勢を大切にして、危機管理意識のさらなる醸成に努める。</p>	<p>①各クラスの生徒防災係を対象にした校内DIG研修を実施する。</p> <p>②教職員自らが講師となって実施する事故防止会議を継続し、より効果を高めるため、さまざまなテーマをタイムリーに取り上げるようにする。</p>